

令和元年度第1回大阪府立江之子島文化芸術創造センター指定管理者評価委員会 議事概要

日 時：令和元年5月28日（火）15：30～17：00

場 所：大阪府立江之子島文化芸術創造センター 2階 多目的ルーム8

出席者：服部委員長、佐藤委員、坪池委員、藤田委員、米山委員、指定管理者、事務局

【議事概要】

1 開会

2 議題

（1）評価の方法及び実施時期について

（2）センターの運営状況及び評価基準（案）について

3 閉会

◎主な意見等

服部委員長：府立江之子島文化芸術創造センター（通称「enoco」、以下「enoco」）の運営について、今年のテーマを端的に教えていただきたい。

指定管理者：表立ったテーマではないが、「協働」と「自立」することだと考えている。

服部委員長：国庫補助金の獲得はどのように考えているのか。最近、文化庁が対象とする事業の裾野が広がっている。京都に移転してきたこともあり、様々な事業を支援するということをされているが、獲得に向けて何かアクセスしているのか。先ほどのご発言は、独自で「自立」することだと思うので、次に繋がっていく運営手法としてありだと思ふ。

指定管理者：文化庁の補助金は、大阪府を通して申請するスタイルがほとんど。大阪府と相談しながら決めていくことになる。文化庁の担当者とはコミュニケーションをとっており、特に「おおさかアートコモンズ」の取組みについては、事業実施前から随時情報を入れているところ。

服部委員長：enocoの認知度はかなり広がっているように思う。認知度自体の「質」については、「何でもやっているenoco」なのか、「コミュニティ事業をやっているenoco」なのか、その辺りも次に自主事業をやっていくために必要なブランディングだと思う。例えば、テーマをどのように絞っていくのか、カテゴライズ（分類）する必要がある。

坪池委員 : 文化庁の京都移転で議論されているのは、文化芸術ではなく、「暮らしの文化」という、まったく新しい文化について。「暮らしの文化」という観点から見た場合に、enoco では何が該当するのか。足元をみて、本当に地域に必要なものは何か、大阪に必要なものは何か、そういうことを考えていかなければならない。

藤田委員 : ただ単に「文化」というのは難しい。子どもの頃に習い事で行う日本舞踊やお茶やお花などが将来の仕事につながり、自分のキャリア形成等が見えてくるとなると、文化に対する見方も変わってくるのではないか。

米山委員 : Facebook、Twitter 等での情報発信について、「やっているからよい」ではなく、文章やことばの一言一言にもこだわり、「どのように発信していくのか」も含めて、いろいろ工夫してもらいたい。

事務局 : 指定管理者だけのHPで enoco の活動を周知しても限界があると思うので、府からの報道提供や Twitter も積極的に活用していく。

米山委員 : SNS 等の発信手段や発信回数がどんどん広がっていけばよい。また、「文化芸術」というものを幅広く解釈し、「アニメ」や「漫画」といったやわらかい、誰もが楽しめるジャンルへの取組みを推進することも、別の意味で enoco の存在を知ってもらう機会になるのではないか。

佐藤委員 : 私の今までの経験で言うと、私の周りで enoco のことを知っていたのは、前に勤務していた事務所のスタッフ 1 名だけ。その人は、ある程度、芸術等に関心のある人だった。enoco の来館者数が増加していることを考えると、「ターゲットを絞る」ところはできつつある。アウトブランディングをもっと意識すると来館者数はさらに増加すると思う。今年のテーマが「自立」ということで、よりアウトブランディングが必要となる。また、資料では、昨年度の実績として、「障がい等により配慮を希望される場合、事前相談を承る旨をHPや事業チラシに記載する」とあるが、これはもっと進めていただきたい。

坪池委員 : 数ある数値目標について、1 つや 2 つは数字そのもので議論しなければならぬことがあるだろうが、しかし、本当は、プロセスのどこの部分に対して努力したのかということを中心にして評価票を作るべきだと思う。

服部委員長 : 例えば、アンケート調査について、「何%の回答があったのか」というのを、

「アンケートからプログラム化されたものが何個採用事例として生まれたか」とすれば、数字の話ではなく、アンケートをどのように真摯にとらえて活用したかという話になるし、質の向上にも繋がる。確かに、数字として取らなければならないものもあるが、むしろそれを「どう活用したか」の方が重要。今後は、その方向で評価するようにしてもらいたい。

坪池委員 : 具体的な「自立」とは何なのか。「自立」とはとても重要で、クライアントが2つになるということ。今は指定管理料をもらっている側がクライアントとなるから、「アンケートを 100 枚とりなさい」という指標になる。でも「自立」となると、反対側にクライアントができることになる。二兎を追うというのはとても重要で、どちら側のリアリティで換算するのか。この辺りの議論はきちんとした方がよい。

服部委員長 : 前段に言っていた「テーマ」というのが、「メッセージ」に繋がっていく。我々がどのようなところをめざそうとしているのか、そこに共存したい人達がやってくると思う。「テーマ」と「カテゴリー」と「今までやってきたこと」を整理して、その結果をどのように格納していくかによって、「発信の距離」が変わってくる。今後はそのような形で評価基準をみてみたい。

服部委員長 : 様々なご意見をいただいているが、今回の評価基準は、変更・修正なしでよろしいか。

一同 : 修正なし。

服部委員長 : これにて、本日の議題は全て終了しました。皆さま、本日はお疲れさまでした。